

診療科紹介：外科

ふれあい



地震対策工事が終了し、新しくなった総合案内には、看護長と専属の案内係員による案内サービスがスタートしています。病院内で何かお困りのことがありましたら、お気軽にお声をおかけください。

目次
◆ 当院の新型インフルエンザ対策
◆ お薬情報局：お薬の正しい飲み方
◆ 地震対策工事終了のお知らせ
◆ 診療科紹介：外科
◆ 編集後記

今回は**外科**のご紹介です。

外科は現在9人のスタッフ医師と3人の後期研修医で構成され、当院の中で最も大きな科の一つです。扱っている疾患は胃癌、大腸癌（結腸癌と直腸癌）、肝臓癌、膵臓癌、胆管癌、胆嚢癌、乳癌、甲状腺癌などの悪性新生物（癌）と胆嚢結石、腸閉塞、ソケイヘルニア、虫垂炎、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病など）などの癌以外の疾患があります。平成20年1月から12月までの間に、当科では1,000件の手術を行いました。このうち緊急で行ったものは201件（全体の約20%）ありました。おおよそ5件に1件は緊急で行っており、これらは夜間や休日に手術することが多いです。緊急で行う手術としては腸閉塞、ヘルニア嵌頓（嵌り込んで元に戻らなくなる状態）、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔（破れて穴があくこと）などがありました。緊急で手術するために祭日も含めて毎日2人の当番医師を待機させており、24時間365日いつでも手術ができる体制を整えています。消化器疾患の多くは消化器科の医師により精密検査された後に、外科に紹介され手術しています。そのため消化器科との間で綿密にカンファランスを開き、患者さんの情報を共有しながら検討を行っています。また、現在は1号館、2号館、3号館の7階病棟を3つ合わせて消化器センターと称しており、消化器疾患の専門病棟にして内科と外科が緊密に連携して診療を充実させています。乳癌に関しては専任の医師が2人おり、術前検査から術後の管理までを総合的に扱っております。入院病棟は3号館6階です。

外科医の最も重要な仕事は手術を行うことです。手術は最新の技術を取り入れ、また器具もより効果的なものを揃えて患者さんの期待に添うように努力しています。手術後の経過を良くするためには術前からの十分な準備が欠かせませんし、術後も的確で緻密な管理が必要になります。また、抗癌剤治療も例外はありますが、主に、術後外来で施行しています。最近新しい抗癌剤が次々に保険適応となり、新たに分子標的薬（血管新生阻害薬など）も認可されました。外来化学療法室を設けて、積極的に抗癌剤治療を行っています。現在当院の外来化学療法室で扱う半分以上の患者さんが外科医によって治療されています。

浜松医療センター外科のモットーは「患者さんと御家族に納得のいく説明を行い、合併症の少ない手術を施行し、的確な化学療法を行い、良好な治療効果を出すこと」であります。静岡県西部地区の患者さんに満足していただける医療を提供するために、今後も我々は精進していきたいと考えております。



(文責：消化器センター長 兼 外科長 西脇 由朗)

《編集後記》 当院ホームページに「**動画サイト**」がオープンしました。トップページの「**動画配信ページ**」をクリックください。動画を使用して皆さんによりわかりやすい情報をお届けします。発行：広報委員会

〒432-8580 浜松市中区富塚町328 TEL 053(453)7111 : FAX 053(452)9217
URL <http://www.hmedc.or.jp> : E-Mail koho@hmedc.or.jp

～ ご自由にお持ち下さい ～

当院の新型インフルエンザ対策

浜松地域でも新型インフルエンザの患者さんが多数発生しております。ここで、**当院にて実際に実施している新型インフルエンザ対策**を紹介します。

①「マスクと手洗いをおこなって診療しています」

新型インフルエンザの感染経路は飛沫と手指です。そのため、患者さんを診察するときにはマスクと手洗いをおこなっています。また、発熱や咳がある方が病院に受診される時には病院入り口にてマスクを装着して手洗いをさせていただくようお願いしております。

②「新型インフルエンザの患者さんには基本的にはタミフルやリレンザを処方しています」

新型インフルエンザの簡易検査の感度は鈍く、ウイルスを検出できないことがあります。そのため、発熱や関節痛などのインフルエンザ症状があれば、検査でウイルスがみつからなくてもタミフルなどを処方することがあります。また、**妊婦や幼児(1歳未満)であっても、タミフルが必要であると判断した場合には、ご本人やご家族の同意を得て、タミフルを処方**することがあります。

③「ワクチン接種をおすすめしています」

当院では季節性ワクチンの接種が11月上旬より開始されます。特に高齢者の方々や持病を持った方は是非とも接種していただきたいと思っております。ただ、**当院通院中の患者さんへの接種に限定**させていただいておりますので、ご理解おねがいします。新型ワクチンについては入手時期が確定しておりませんので、現時点では接種開始の日程は不明です。そのほか、インフルエンザ後の肺炎を防ぐために**肺炎球菌ワクチンの接種**をお勧めしています。



(文責：副院長 矢野邦夫)

お薬情報局：お薬の正しい飲み方について

前回はお薬の飲む時間についてお話ししましたので今回はお薬の飲み方についてお話しします。

◎ 多めの水または白湯で飲みましょう

お薬を飲むときはコップ半分以上の水または白湯で飲んでください。ただし腎臓や心臓の病気などで飲水量が制限されている場合は、医師の指示に従ってください。お薬は胃や腸の中で溶けてから体に吸収されるので少ない水で飲むとお薬が溶けにくく吸収が悪くなって薬の効果が十分に現れないばかりか、食道にひっかかったりして、そこで潰瘍ができてしまうことがあります。また水または白湯以外の飲み物（お酒、牛乳、お茶、グレープフルーツジュース等）で飲むとお薬によっては効きすぎて**副作用が現れたり逆に効果が下がったり**することがあります。

◎ 包装シールから出して飲みましょう

錠剤やカプセルには包装シートに入っているお薬があります。この包装シートのまま飲んでしまうと角が硬くとがっていますので**食道や胃などに傷をつけたり、穴をあけたり潰瘍を作ったりすることがあります**ので注意してください。包装シートのまま飲んでしまうことなど考えにくいと思われそうですが実際には時々あるそうです。包装シートから出して飲むことはわかっているつもりでも考え事をしていたり、あわてていたり、テレビを見ていてうっかりといった事故が起きているようです。

◎ 錠剤を割ったりつぶしたり、カプセルをはずしたりしない

錠剤やカプセル剤の中には大きすぎて飲みにくいものがありますが飲みにくいからといって勝手に錠剤を割ったりつぶしたり、カプセルをはずして飲まないようにしてください。お薬によっては、長時間効果が持続するように作られていたり、胃で溶けずに腸で溶けるようになっていたり、苦いお薬を苦くないように錠剤やカプセル自体に色々な工夫がされているものがあります。錠剤を割ったりつぶしたりカプセルをはずしたりしてしまうと、その工夫がダメになり、お薬の効果が強くでたりして副作用が現れたり、逆に効果がなくなってしまったり、効いている時間が短くなったり、苦味のために飲みにくくなったりする場合があります。

錠剤やカプセル剤が大きすぎて飲みにくいという人は医師又は薬剤師に相談してください。

(文責：薬剤科長 片山一孝)

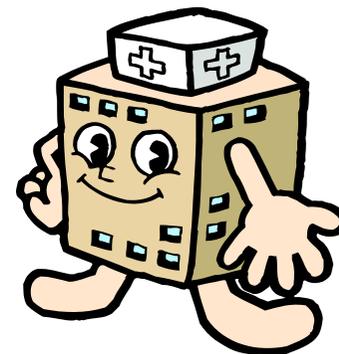
地震対策工事 終了のお知らせ

県西部浜松医療センターは、地域医療の中核をなす病院であり、地震等の災害時には防災拠点となります。本病院は東海地震に対する耐震性向上のため、地下1階から上部を免震建物とする工事を行ってまいりました。免震建物は、水平方向に非常に柔らかい免震装置を設置する事により、地震時の水平動に対して地盤と建物の縁を切ってしまう構造形式です。本病院では地下1階に免震装置を設置しています。

地震対策工事は平成18年8月から平成21年9月まで行われ、病院を使用しながら地下1階において、順次柱の中間部に免震装置を挿入する工事を行いました。使用している建物の柱を切断し、免震装置を挿入するには、柱が支えている荷重を一旦他の部材で支持する事が必要となります。この工事を行うに際し、実物大の試験体を作成して載荷実験を行う事により、安全かつ確実に柱の荷重が支持できる事を確認しました。また、元々は1号館・2号館と別々の建物でしたが、免震建物とする事により地震時の揺れを小さく出来る事から、2つの建物を一体とする事が可能となり、建物間にあった金物等による段差が解消されています。

免震建物となった事により、建物の外周部には地震時に建物が移動する免震クリアランスが設けられています。

この部位には可動する床や壁が設置されていますが、地震時に動きまわりますので、立ち止まったり物を置いたりしないようお願いいたします。



(文責：経営企画課 榊原智宏)